

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

質問・意見	回答	担当課
地域支援事業と保険事業を一体的に推進することは賛成ですが、そのためにはそれぞれの所管課の連携・協働の仕組みづくりに配慮が必要だと思います。	本事業やフレイル対策を推進していく上で地域支援事業、保健事業の関係部署との連携は重要と考えており、各所管課が参加する庁内フレイル対策推進会議を開催しており、連携、協議しながら引き続き進めてまいります。	健康増進課
高齢者対象の事業実施体制は確立されているが、長寿健診、特定検診などの受診率はどの程度か	令和2年度の西宮市長寿健康診査の受診率は36.7%、国民健康保険特定健康診査は34.6%となっています。	国民健康課 高齢者医療保険課
西宮市いきいき体操については、老人クラブの理事会でも報告があるので、現状を知ることができるが、健康ポイント事業は発足間もないことであって、実施状況がよく分からない	健康ポイント事業について、現在の事業参加者は、アプリ1,281人、活動量計2,397人合計3,678人（令和4年1月31日現在）となっております。コロナ禍での事業開始になりましたので、ウォーキングポイント、体組成計測定ポイント、専用サイトへのログインポイントしか現在はポイント取得ができませんが、状況次第ですが、イベント参加ポイントも今後取得できるように進めています。	高齢福祉課
後期高齢者の質問票などは健康状態を知るうえで大いに活用できるので、老人クラブに呼びかけて、早急に実施してほしい	後期高齢者の質問票は通いの場や相談会などの様々な場で活用していきたいと考えております。老人クラブ様にはご協力いただけるとのこと、感謝申し上げます。お声掛けさせていただいた際にはご協力よろしくお願いいたします。	健康増進課
高齢化が進行するなか、標記事業が「健康寿命の延伸」をはかるべく実施されることは意義があることと考えるが、（要約）には「健康寿命の延伸」とあわせて「介護給付費削減」「医療費削減」が目的と明記されている。後者2つは結果としてそうなるのであり、目的とすることはいかがなものか。高齢者が介護や医療を受けることを抑制させ、ひいては罪悪感をいだかせはしないか	本事業の目的は「高齢者が住み慣れた地域で自分らしく、健康でいきいきと安心して過ごせること」です。 「健康寿命の延伸」を図ることで、結果的に「介護給付費軽減」、「医療費軽減」となることより、目標に設定しています。また、資料No1の11ページ（令和4年度 事業実施計画書）にこの3つを目標設定することを記載しています。 ご指摘の通り、高齢者が介護や医療の利用控えや罪悪感を感じることがないように事業の展開時には留意しながら説明し事業を進めてまいります。	健康増進課
ポピュレーションアプローチの対象はどうするのか。年間のべ750人を予定しているとのことだが、75歳以上全高齢者（約6万人）では、1.25%。要介護認定者（約19,500人）を除いても2%不足であり、圧倒的に規模が小さいと思われる。	本事業においてはハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチともに医療専門職が関わることとされています。 ハイリスクアプローチでは家庭訪問を1回の訪問につき多職種の医療専門職2名で2回、ポピュレーションアプローチでは通いの場1か所につき保健師・管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士の複数の専門職で支援することを想定しております。事業開始初年度のため、ご指摘の通り対象としては少ない規模からの開始となりますが、より効率的にできるだけ多くの高齢者に対し関わっていけるよう見直ししながら事業を進めてまいります。	健康増進課
ハイリスクアプローチの対象は、長寿健康診査の結果から一定抽出し、年間160人を予定している。この予定数は対象に対し有効なものかどうか判断つきかねる。		健康増進課
いずれにしても、効果・成果が高齢者全体に及ぶ規模や内容となるよう要望する。		健康増進課

西宮市立寿園の現状と今後のあり方の検討に関する報告について

質問・意見	回答	担当課
民設民営による移転建て替えには賛成ですが、施設建設用地の確保はどうなるのですか。	今後関係局及び各課との調整を行ってまいります。	高齢施設課 福祉のまちづくり課
特別養護老人ホームに養護老人ホームを併設する場合、運営する法人の選定については、実績・経験等を十分に精査していただきたいと思ひます。	いただいたご要望を考慮し、事業を設計してまいります。	高齢施設課 福祉のまちづくり課
<p>議論されている通り、生活困難者や虐待等で緊急時の受け入れの為の居室確保（ショートステイ）や緊急時に対応出来る職員体制が必要と考えます。</p> <p>高齢化が進む中でADLの低下だけでなく、認知症や精神疾患をもつ方も増えており、職員の専門的な対応能力も求められます。また、どの施設(事務所)も人材確保が課題となっていますので、今後施設運営に関して引き続き十分な協議をお願いいたします。</p>	いただいたご意見を考慮し、事業を設計してまいります。	高齢施設課 福祉のまちづくり課
<p>養護老人ホームの存在意義は非常に高く、セーフティネットの大切な役割を担っています。様々な課題をクリアしつつ、受入困難な方の受け皿として、定員の見直し、修理に係る費用と、どこまで、築何年まで耐えられるのか、入所者減少の原因と職員確保の方法等多岐に渡り更に議論を深める必要があります。必要不可欠な施設だと強く認識しております。特養の併設は人材確保と隣り合わせな課題です。</p>	いただいたご意見を考慮し、事業を設計してまいります。	高齢施設課 福祉のまちづくり課
懇話会の提言内容については、概ね妥当ではないかと思う。今後市として議論し、次期も含め検討することを望む。	いただいたご要望を考慮し、事業を設計してまいります。	高齢施設課
<p>「西宮市立養護老人ホームの在り方検討懇話会」の委員に、寿園に直接関わっている方がいないように思いますが、事務局の西宮市職員の中にそのような方（おそらく、高齢施設課職員）、あるいは、その運営・現場支援をよくご存じの方がおられるということでしょうか。</p> <p>現場の運営・支援の現状をある程度踏まえて、今後のあり方の検討が必要ではないかと思ひましたので、質問させていただきました。</p> <p>ただ、それぞれの委員の方は存じあげませんし、またこのような懇話会の構成について詳しくありませんので、あくまで、単なる質問です。とくに今回の提案事項に何ら意義を申し立てるためのものではありません。今回の懇話会のご提案でよいと思ひます。</p>	委員は、社会福祉学を専門とした大学准教授、高齢者からの相談窓口でもある地域包括支援センターや社会福祉協議会、経営面からご意見をいただく公認会計士で構成されています。事務局は高齢施設課が主となり、関係各課で構成しております。	高齢施設課
高齢者は環境が変化するとあまり身体的に良い結果はないとされるので、不安はある。移転について、諸事情があるがせめて部屋等について工夫も大事ではないか。	現在の寿園は築38年が経過し、受入対象者の介護度の上昇に対応できていないため、要介護者でも利用可能な部屋の造りにするなどの対応が必要と考えています。	高齢施設課
養護老人ホームについて、社会参加に必要な訓練とはどのような内容が勉強不足で理解できていませんが、本人が喜びと感ずる為の訓練でしょうか。仲間作りで皆さんと楽しく過ごす（社会参加する）為の意味でしょうか。	環境上の理由及び経済的理由には、親族による虐待のケースや、金銭費消による住居喪失、独居生活が困難な方など、様々なケースの方がご利用対象者となります。個々のご利用理由に応じて処遇計画を作成し支援を行っております。	高齢施設課